

# 令和3年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日時: 第1回 2021年5月26日(水) 13:00~16:10

第2回 2021年6月2日(水) 13:00~16:10

場所: 兵庫県立大学遠隔講義室(Zoom)

テーマ: がんの病態を踏まえた症状マネジメント

【第1回】症状緩和総論・がん疼痛の症状マネジメント(がんの病態を踏まえた消化器症状マネジメント:悪心・嘔吐、腸閉塞、便秘、腹水について)

【第2回】がんの病態を踏まえた呼吸器症状マネジメント:呼吸困難、咳嗽、胸水について(がんの病態を踏まえた精神症状マネジメント:不眠、せん妄、苦痛緩和のための鎮静、緩和ケアのためのコミュニケーション技術について)

講師: 安保 博文先生(国家公務員共済組合連合会六甲病院 緩和ケア内科部長)

受講者: 各回 3名(うち学外2名)

主催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 川崎 優子

兵庫県立大学 看護学研究科  
令和3年度 がん看護病態学特論  
令和3年度 大学院公開特別講義



がん進行期の症状緩和の考え方  
症状緩和 総論

六甲病院緩和ケア内科  
安保博文

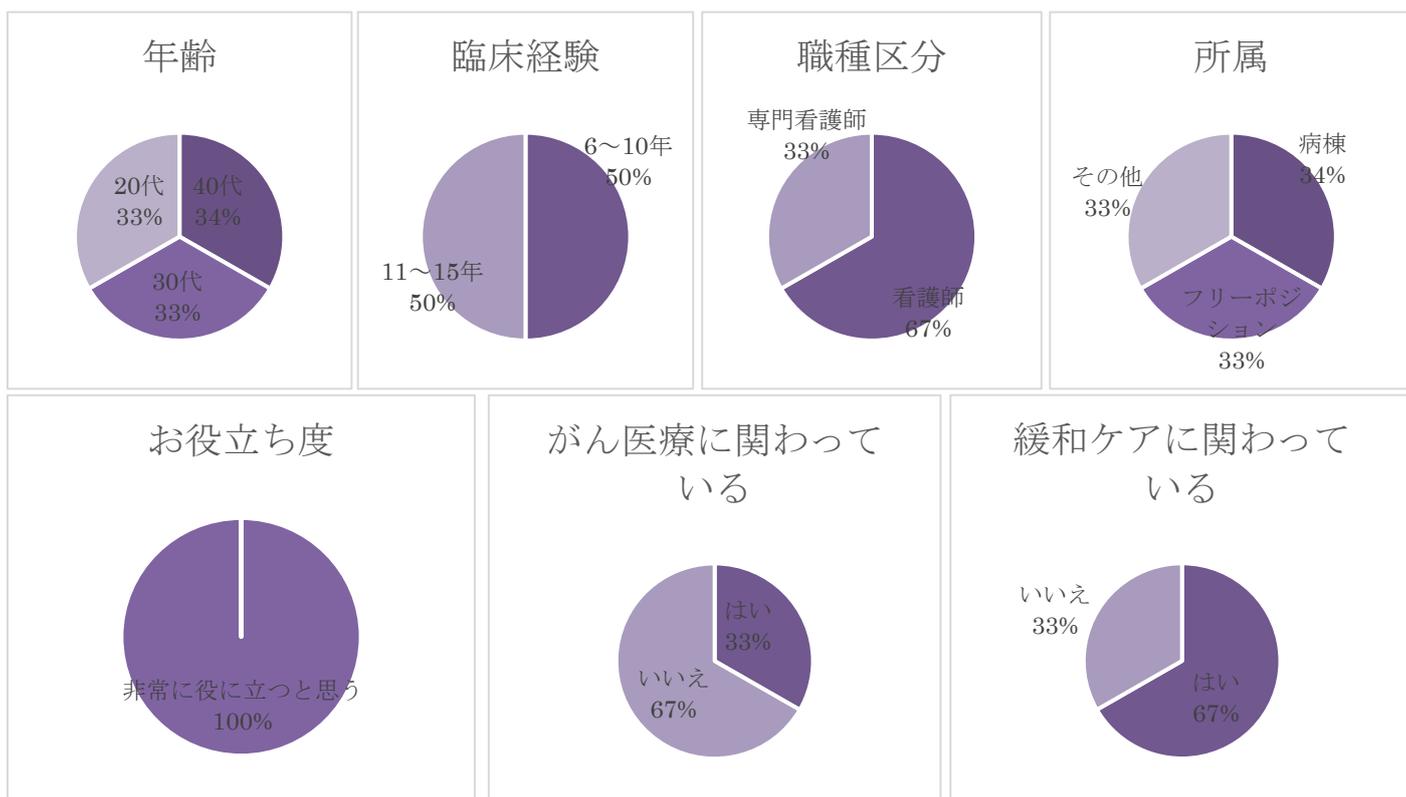
## <概要>

六甲病院 緩和ケア内科部長 安保 博文先生から緩和医療学概論特別講義「がんの病態を踏まえた症状マネジメント」として、「症状緩和総論・がん疼痛の症状マネジメント(がんの病態を踏まえた消化器症状マネジメント:悪心・嘔吐、腸閉塞、便秘、腹水について)」および「がんの病態を踏まえた呼吸器症状マネジメント:呼吸困難、咳嗽、胸水について(がんの病態を踏まえた精神症状マネジメント:不眠、せん妄、苦痛緩和のための鎮静、緩和ケアのためのコミュニケーション技術について)」を、2日にわたっての講義でした。

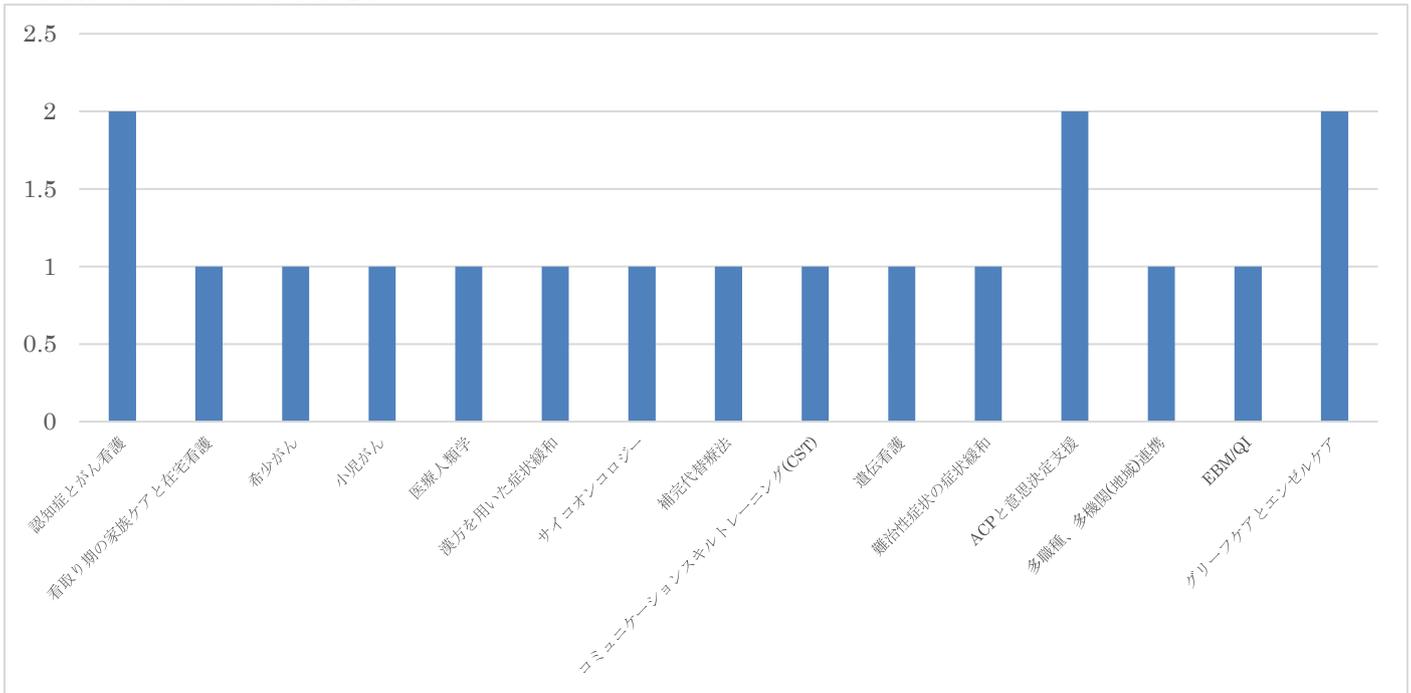
患者や家族の希望により寄り添うために確認すべきこと、どのようにケアを提供できるか、どんな選択肢があるかを、具体的な症状や薬剤の例をもとに詳細にご説明頂きました。事前に参加者から課題として臨床で抱える問題を提出いただき、それについても、検討できること、考えることなどのお話や、講義中にもたびたび、参加者の臨床での状況の確認があり、参加者が今まさに抱えている問題などを共有できる時間を持てる有意義な時間となりました。

## <アンケート結果>

### ●参加者について



## ●今後、セミナーに期待するテーマ



## ●参加者からのコメントより

- ▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。
  - ・せん妄には身体症状があるはずなので、まずは身体の状態をアセスメントすることが大切だと学びました。いきなり薬剤ではなく、必要な情報を細かくみていくことで解決の糸口が見つかり、適切な看護ケアや薬剤投与に結びつくと思えました。新しく学んだ知識も多々あり、とても勉強になりました。
  - ・薬だけで何とかしようとせず、関係性を意識しつつ安心が目標できるように緩和ケアを行うという言葉の伺い、困ったときつい薬剤に頼ろうとしてしまう傾向にあることを再認識しました。また、症状は1対1対応で解決できるものではないという言葉も、とても納得が이었습니다。
  - ・呼吸困難に対してがん以外の原因をなるべくなくすることが重要だと感じました。特に NSAIDs の使用と浮腫との関連やまた輸液の確実投与といった工夫など、医師とも相談しながら実践につなげたいです。
  - ・酸素投与方法の工夫は病棟でも実践してみます。
  - ・終末期せん妄や疼痛の増強あった場合、薬剤の追加や鎮静を行うかということを考えていました。そうではなくまずは患者や家族の意向はどうだったかな？と考えるようにしたいです。患者・家族の価値観や思いを知るためにあらかじめ話し合うことや病状をみて今後の方針を決めていくことをもっと実践しなければいけないと感じました。
  - ・実践可能な目標を2つ合わせて何をすべきか考えるということということも意識したいです。
- ▼症状マネジメントにおいて、今最も強く感じている課題をお書きください。
  - ・的確にアセスメントできる知識や能力、エビデンスに基づいた治療方針についてもっと勉強していきたいと思えます。
  - ・チーム医療の難しさ。看護師と心理師以外はみんな通常業務と兼務のため、なかなか患者さんへのコミットができず、カルテ診のみで薬だけ提案して…ということがあるので課題だと思っています。
  - ・身体的な要因からくるせん妄への対応
- ▼2回の講義を通じて感じたことなどありましたらお書きください。
  - ・症状ごとの解説でわかりやすかったです。また、事例を通してお話くださったので、臨床場面も想像しやすく身近に考えることができました。
  - ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ▼ご意見、ご感想がありましたら、お願いします。
  - ・終末期にある患者さんへの看護だけでなく、日々の看護実践に繋がる点も多く、考え方や観察するポイントなどを学べたと思います。ありがとうございました。